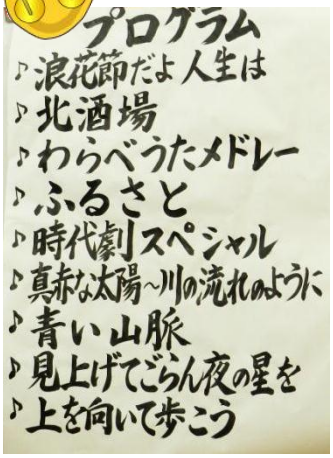
サービスハウス通信

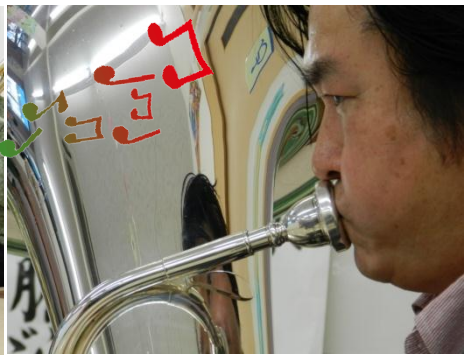
第 15 号
H24 年 2 月 25 日
発行
社会福祉法人東光会
サービスハウス 事務室
TEL084-941-5255

Fukuyama City Band 演奏会

平成 24 年 2 月 11 日(土)　サンビレッジ通所リハビリで、福山シティーバンドの演奏会が行われました。



福山シティーバンドは、HP によりますと、1981年5月、音楽を愛する仲間が集まり結成されました。福山市を中心に神辺、府中の社会人から高校生で構成された一般バンドで、現在約70名で構成されています。各地公民館行事、小学校・中学校でのコンサート、定期演奏会を開催し市民の皆様との交流を目的として活動されているそうです。



写真撮影・・・コオリ

生演奏の迫力に大感激！！

「ふるさと」を皆で一緒に歌いました。故郷を思い出されたのでしょうか,涙される方もおられました。

まるまるもりもり・・・楽しかった・・・
良かった・・・

シベリアへ送られて Ⅷ

郡　誠司

＊日本へ往復ハガキ＊

ある日、作業から帰ると、思ってもいなかった「往復ハガキ」が一枚ずつ配られたことがありました。このハガキは国際赤十字から配布された「俘虜用往復ハガキ」というものでありました。次の日曜日までに出せということでしたから配られたその日には書かずに、ハガキだから長々とした文面は書けず、一日於いて書き始めました。

どの兵達もエンピツなど持った者はいないはずですが、そこはなんとかしていたようです。僕はエンピツを貰っていたので芯をなめては書くと、紫色のインクで書いたようになるのが不思議でした。ハガキの下の方に「ソビエト連邦クラスノヤルスク三四地区第三ラーゲル」と印刷されていました。宛先を書くのに僕の場合考えなければならないことがありました。

入退してから、母たちは大阪空襲により焼け出されたと聞いていました。大阪にいないと思い、福山へ帰っているだろうと思って「福山市三吉町　郡いち　様」と記しました。復片には、僕宛の名前さえ書いておけば再びシベリアまで帰ってくれるものと思っていました。何と書いたものか。

『やっと便りが出来ます。皆は福山へ帰っているものと思っています。母も妹たちも元気にしていたでしょうか、僕は満州の部隊で終戦となり、そのままシベリアまで来ております。極寒の地ですが部隊行動で生活をしていますから心配はいりません。僕はとても元気にしております。

いつかきっと帰れますからその日の来るまで待っていて下さい。』

こんなことを書いたかな？果たしてへん返事が来るのだろうか？祈る気持ちでいました。

三か月、いやもっと過ぎていたかもしれませんが、ハガキが日本旅行をして間違いなくラーゲリへ帰って来てくれました。ハガキのことなどすっかり忘れていたところへ日本からまとまって届き、一人一人に手渡されたのでした。嬉しかったですよ！むさぼる様に繰り返し読んでいました。

福山の家では、シベリアからハガキが届いたのにはびっくりしたと思います。僕が元気にいることが分かり安心したようでした。妹が書いた文面に筆跡の違う文面が一筆あったのです。新京の会社で同僚だった高島君でした。彼は新京で応召するのを見送ったと思っていましたが、その後、九州へ転属して終戦になると復員していたのでした。これには、いささか悔しい思いをさせられましたが、高島君も御幸町に自宅があり、時折、三吉町の郡の家を訪ねてくれていたようで、ちょうどこの時シベリアからのハガキに出会い、一筆書き添えてくれた好意には感謝しています。

ありがとう！

＊手帳に書かれた艶本＊

寒中は夕食が終わると毛布にくるまって、その上にシューバを重ねて寝転がりボンヤリしているのがいつものパターンでした。中の一人が薄明かりの中で小さな手帳をめくりながら、熱心に読みふけっていました。その手帳が翌日の夜、僕の手に渡って来たのでした。誰から誰へ、どのように渡って来たのか、暗黙の裡に人知れず渡り歩いていたようでした。

作者は不明です。余程の手慣れた好事家でしょう。手帳のような小さな紙面によくも艶っぽい色事を巧みな文体で綴ったものです。「ああ、いいよ、いいよ、フフフフ」なんてうまいものでした。それにしても娯楽のない生活の中へポッンと転がってきたこの手帳は隠れたベストセラーと言えるでしょう。

＊レンガ工場＊

二十二年当初から第四建設で氷点下四十度を体験させられましたが、今日なお、ここまでは下がらずとも、極寒中でありました。春は近いのだといってもそんなにたやすくは訪れてはこないようです。

レンガ工場の作業場は南の丘の上にありました。道程は遠くトラックに乗せられての通いです。工場の概要を担当組別に書いておきましょう。

原料となる粘土の掘り出しには、他のラーゲリから来ていた組が地下に潜っていました。粘土の土煉器にはマダムが専門に付きっきりで大きな土煉器の中からレンガの形をした長い四角な中を押し出されてまるで羊羹のように四個単位でピアノ線によりカットされていました。続いてどしどしと出てきます。

この生レンガは一〇段もある背の高い台車に乗せられ乾燥室に入れられます。乾燥されたレンガは窯入れになるのですが、これ等は、第三ラーゲリの二組が連携作業で行っていました。概要でした。

間もなくして、石原兵組は、この工場の作業から離れることになりました。工場から遠く離れた丘の下方に、この工場で働く人たちの共同住宅を建設することになりました。木工では大工の棟梁である渡辺兵が居りました、左官作業にもベテラン兵が居りました。その他にも雑務兵が多くいたと思います。

監督の説明がありましたが、図面も無ければ、スケールさえ持って居りませんでした。この建設の骨格は中央に二メートルの廊下をはさみ、両側に五ルームずつの部屋造りでした。一部屋が何平

米ともいっていません。要するに掘立式で作業を始めることにします。

事務所は、この現場のはずれに小さく建てられていました。裏には細い川でしたが、雪解け水が流れ、飯盒に水を汲んで、事務所で沸かしては味気ない湯を飲んでいたのでした。

この現場の周辺は、およそ、農村と言っていいでしょうか。丸太を組んだログハウスが点在していました。今は凍結していて耕作も出来ずにレンガ工場へ働きに行っているようでした。

これから、共同住宅の骨格である柱から立てていきます。太い丸太柱を深い穴を掘り上げては等間隔に並べて行くのでした。いわゆる掘立式なのです。

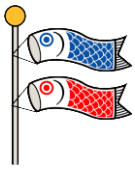
こうして柱が立ち終ると柱を挟むように両面から太鼓張りにして、空洞へ石炭殻を詰め込んで防寒とします。窓枠が付けられると梁まで板を張り上げてなおも防寒策として石炭殻を詰め込むのでした。これで外観の見栄えは良くなってきました。

後は、廊下の板張りと左官作業になりました。これ等を担当兵にまかせ、大工作業組はいよいよ合掌工作へと変わります。渡辺棟梁の指示に従い、材料を上げて揃え一度に切ってしまう手順をしていたところ、これを見ていた監督は通訳を呼んで、血相を変えて怒ったのでした。そこが相方観点の違いなのです。

「どうしてこのように多くの材料を一度に切ろうとするのか？寸法が違って使えなかったらどうするのか？」渡辺棟梁が「監督に説明をしてやれ」と言ったのでした。「一〇以上もある合掌だから同じ寸法に造らないと棟が一直線にならないのだ。寸法は間違いないから日本流でやらせろ」と言ったのでした。これには監督も二の句が出ず無言になりましたよ。それからというか、何度も見回って来ておりましたが、あれこれと言っている間に合掌が全部収まって棟は一直線に通って見事な仕上がりになっていたのです。

屋根の完成を見た頃、石原兵組に労賃が支給されたのでした。石原兵は皆でパンと牛乳を買って来て「茶話会をしよう」ということになったのでした。翌日手分けをして買いに廻ったのでした。この夜、ラーゲリに帰ると「牛乳で乾杯！」までは行かないけど黒パンを分けて口にして腹も満たされた。

石原組の結束の成果によって出来た茶話会の一夜が終わったのでした。夜が明ければまたトラックに乗せられ、レンガ工場へ来ていました。



＊メーデー＊

四月は今日で終わったという日でした。ラーゲリへ帰っていつものように夕食を食べていたら明日の作業は休みだと知らされました。二十二年五月一日（一九四七）でした。メーデーは労働者が作業を休んで集まってデモストレーションをする祭典と言っています。このようには言っていますが昨年は、戦後事情もあってかロスキー達も我々も作業に出ていたのです。今年は休むことになったとは予想外のことでしたよ。もっけの幸いと言わねばなりますまい。ラーゲリ本部からも、デコレーションを作れとも赤旗を持ってデモをしようとも、全くそんな気配すらなかったのでした。だから嫌に静かすぎるラーゲリ内だと納得できたのでした。兵達は何の行事もないほうがかえって良かったと思っていました。今日の一日は何よりの休養日だったのです。

＊住宅団地＊

レンガ工場の作業が終わると、今よりなおも遠くへ行くことになったのです。トラックに乗せられ通うのだから長い道程を歩かされるよりは楽ではありましたが、住宅団地の建設現場でした。

山麓に煉瓦積み二階建ての住宅が、何棟も並んで建っている処でした。この一角に集会所となるべき建物がレンガ積みを終え、屋根作業を残すのみとなっている処の大工作業を受け持とことになったのです。必ず相棒が要りますから、中山兵と二人して最後まで大工作業に終始して居りました。レンガ積みは既に終わっていましたので、角材と板材を屋根上まで運び上げるのに一苦労でしたよ。中山兵は小男だったので、なおの事苦労したと思っています。

苦労して上げた屋根板張りは順調に進んでいました。ただ、困ったことに軒端を切り落とすには足場を作らなければならなかったのですが、そんな手間を省くために、二人用の鋸を半分に切り落とし、半分を一人鋸用に目立てをしてしまったのです。僕の持っていた三角ヤスリが役に立ったのでした。一人で挽くことが出来たので思いの外早く終わることが出来て成功でした。

屋根の板張りの作業が終わって下に降りてみると、集会所の入口に幅が一・五米もあるとてつもない大きな階段が運び込まれていたのです。

翌朝、監督が出て来て「この階段を、お前たちの手で取り付けてくれ」と言ったのでした。「ハイ分かりました」とは言ったものの、物が物だけに不安もありましたが、失敗は許されませんから躊躇していても仕方ありません。小柄の中山兵を相手に、この大きく重い階段を一度は二階の床へ上部を乗せ、傾斜角と段板の水平を確認して慎重に見極めた上で側板上下を切り揃え、もう一度、二階へ乗せるとドンピシャリに据わってくれました。

釘を打って固定が終わりました。監督が来ましたので「これでよろしいか？」と尋ねますと「オーチン、ハラショー」と褒めてくれました。この後、各棟の二階部屋の残務補修の作業を続け終わりを告げたのでした。

オーチン、ハラショー…（褒め言葉）

とても出来栄えがよろしい。**次号へ続く…**

靴下ハギレのリサイクル

　奈良県北葛城群広陵町から、靴下の製造工程で発生した輪っか状のハギレを送ってもらいました。
　かたちは、直径　およそ 6～7 センチ　太さ　およそ 5～6 ミリ程度材質　綿・ポリエステルなどです。大きさ・太さ・色はふぞろいです。裁ち切りなので、糸のたるみやほつれがあります。皆で色毎に仕分け・ごみ取りしてマットやカゴを作りました。

カラフルな作品完成！

教えて！

輪っかで、草履に挑戦しましたがうまく出来ません。

草履の作り方を御存じの方教えて頂けませんか…

輪っか編みへのご参加を、お待ちしております。
参加費用は無料ですが、色の種類が少なくなっております。

編集後記

もうすぐ三月、花咲く春は待ち遠しいけど、花粉症に困る季節です。
皆様の詩や短歌、子供の頃の話や故郷の思い出など募集して居ります。お話下さればお聞きに伺います。職員に声をおかけください。御意見・感想もお願いいたします。　　河村

昨年 10 月から始まった健康体操、毎週、火・木の 15 時からアネックスデイルームで行っております。
2 月 23 日で 35 回目を迎えました。
清末 PT オリジナルの「ずんどこ節」に合わせて行う体操は楽しいですね。身体を動かしましょう！
　　皆様ぜひ一度ご参加ください。